

ALLアセットパートナーズ 太陽光発電ファンドの第2弾

市民出資型の太陽光発電ファンド事業を手掛けるALLアセットパートナーズ（中区中町7-41、豊島康夫代表）は9月、「ソライチ太陽光発電ファンド2号」を創設した。同月10日～10月31日に出資者を募る。出資は1口50万円で、運用期間10年間の3200万円と同20年間2800万円の計6000万円を集める。

投資先は三原、東広島、大竹市の計5カ所の757～5705平方メートルの施設。発電容量は60・5～89・1キロワット。出資者は、同社からの施設賃料を原資とした分配金を年1回、10年間、もしくは20年間受け取る。発電量が予測を下回っても一定額の賃料が支払われ、計画を上回った分の30%を上乗せする。分配目標は10年間で35%増、20年間で105%増と

し、安定運用を目指す。中途解約や譲渡は原則できない。また、災害等の自然環境により設備の評価が著しく減少した場合や、営業・運営者の経営、財務状況など取り巻く環境によつて、損失が生じることがある。太陽光発電の投資は一般に土地や多額の資金が必要なため、個人では難しい。ファンドの仕組みを使つて、少額な資金での投資を可能とした。

同社は金融、法律、不動産、太陽光発電所建設の各分野の専門家6人が参画し、2015年に設立。1号案件は17年11月～18年1月に6400万円を集めた。20年間の運用期間で目標分配率70%増としている。同社の17年9月期の売上高は2億8100万円。総資産は2億8800万円。